

サンデー
コラム

中村正・秋田屋本店社長

4月から5月の田園風景は、レンゲの鮮やかな紅紫色に染まり、初夏を告げる季節となります。特に岐阜県は、県花にレンゲが選ばれたように、レンゲの産地として有名でした。ところが近年はレンゲの花を見ることはまれになり、ピンクのじゅうたんを敷きつめた風景に巡り合うことは難しくなっています。

レンゲが著しく減少したのは何故でしょうか。

第1に稲作の形態の変化が挙げられます。昔の稲作は有機農法でレンゲを肥料として使用していましたが、現在の効率を求め、稲作では、化学肥料を使うためレンゲは必要でなくなりました。

次にレンゲの害虫、アルファルファタコゾウムシの問題です。1982

県花

春の田園風景、著しく変化



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。業界団体の県製菓協会会長、みつばちの家庭理事長、県養蜂組合連合会会長を務める。また県経済同友会代表幹事、岐阜南法人会副会長、岐阜商工会議所常議員、県フェンシング協会会長、岐阜市体育協会副会長、岐阜北高校同窓会会長を務める。

年に日本に上陸した外来の昆虫で、レンゲの葉や花を食べ尽くしてしまっています。日本では最初になくなってしまいました。近年は種子を採らなくなりました。中国産のレンゲは激減し、市場での流通量が困難な状態となっています。九州で広く繁殖し、そのが、稲作転換でレンゲをたぐり蜜を吹く。

逆風が吹く中、稲作農

きました。岐阜県では99年に発生が確認され、数々の間に県内のレンゲ畑を浸食しました。

レンゲの種子が必要となります。そこで中国から輸入となり、現在流通するレンゲ種子はほとんど「本場」として養蜂界の歴史的に岐阜県は、わが家と養蜂業界はレンゲの国の近代養蜂の発祥の地であり、明治中期以降の復活を目指しています。具体的活動として、▽消費者が求める有機農法の

第3の原因は、レンゲが中国産で、岐阜古来の種子にあります。岐阜レンゲ種子ではありません。その理由の一つはレンゲ王国にありまな。丁度日本で絶滅した新瀉県佐渡の「朱鷺」です。岐阜県産のレンゲ蜂採し出し普及を図るな。稲作に回帰する▽害虫問題の解決を図る▽岐阜県内て古来のレンゲ種子を

蜜は、さわやど、産学官の連携体制でかな香りと上レンジ復活プロジェクト品な味で、最の展開を図って参る所存です。

県花のレンゲ復活を